

呑川の未来 ≧ 「呑川グランドデザイン」の作成

呑川の未来についてどう考えますか。

呑川の未来など考えたこともない方が多いのも事実なのでしょう。

でも、私達、特に大田区民にとって呑川は欠くことは出来ない住環境としても貴重な川であり空間なのです。もっと素敵な川として未来の子供達に堂々と引き継げる川に早くしたいものです。

そういう思いを持って、私達は呑川グランドデザインをつくりました。

以下、その趣旨と概要について説明します。

(注) この内容は会報第95号とほぼ同内容になります。

≪初めに≫

私たちの仲間で30年後のより豊かな呑川を目指して、「呑川のグランドデザイン」と銘打って、2018年の8月に呑川の改善提案をまとめることができました。作成には約4年の歳月がかかってしまいましたが判りやすいようにメンバーの手によるイラスト入りの提案書が作成でき、良いものが出来たとの評価をいただいているところです。そして最大の目的でもあるので、その内容は早々に2019年の2月までに関係の行政当局や議会関係者へ、今後の呑川造りに生かしてもらおうべく説明と意見交換を行いました。概ね良い評価をいただきましたが、今後これを現実化させて行かなくては何もならず、今後の行政への働きかけと、活用が問われている状況と思われま

冒頭のパンフレットの内容と重なりますが、より判り易く私達の提案について説明し、また議会や行政当局への説明活動についても記してみました。

I. 呑川グランドデザイン作成の趣旨と目的、等

1. 現状(の呑川に対する)認識

現在の呑川は上流部から中流部にかけてはコンクリート三面張りの構造で、川面は深く、脇の側道は比較的狭いのに、車も通り線も少ない上、ゆっくりの散歩もままならない所が多い。

また中流部より下流においても水の汚染問題もあって、魚やカモ類などの鳥達もいるが、周囲の景観含めてゆっくり観察したりできる環境は少ない。

流れる水自体は意外にきれいなので、住民にとってかけがいがなく長く続く空間と水の流れをもっと有効に味わえる川に何とか近づきたい。

2. グランドデザイン(略:GD)作成の目的

- ① 大田区等の行政に対して、郷土の川・呑川をもっと住民にとってより近く、潤いのある貴重な環境資源として活用できる川造りを提案する。
- ② そのことによって、行政に対して上流から下流にわたり呑川を将来的にどうゆう川にするのか、長期ビジョンの作成とそれに基づく川造りを働きかけて行く。

- ③ また同時にそのことによって、我々メンバー一人々の呑川造りへの具体的イメージの統一を図り、今後の行政へのスムーズな対応を目指す。

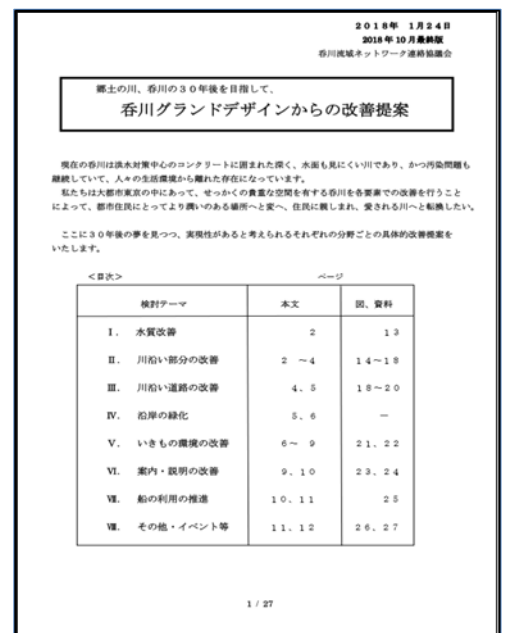
3. 作成主体

私達呑川の会のメンバーを中心として具体的に呑川を良くする活動を継続的に続けている「呑川流域ネットワーク協議会」に於て計画し、当会の中心の活動として実行した。

4. 準備と基本方針、経過等

2014年の秋より以下ステップと方針の下、計画を推進した。

- ① 検討する分野を以下の8分野に設定した。
 - a. 水質の改善 b. 川沿い部分の改善 c. 川沿い道路の改善 d. 沿岸の緑化 e. 生きもの環境の改善 f. 案内説明板の改善 g. 船の利用の推進 h. その他イベント企画
- ② 会を構成する各会のメンバーから各要素ごとに改善提案を挙げるアンケート調査を実施した。結果47件の希望やアイデアが集まった。
- ③ 8項目の要素区分ごとに分担検討グループを立ち上げて、検討議論と調査の実施を開始。
 - ④ 検討に際しては前記目的(特に2.②項)のために実効性がある提案づくりに留意した。
 - ・ 実効性の要素 : a. 技術的に十分可能か b. 経済性 c. 法令との整合性
 - ⑤ 最終的な提案については、内容の容易な理解を得易いように、イラスト画を添付することとした。



II. 作成した成果品

- 1. 呑川ブランドデザイン検討結果報告書 49 ページ
- 2. // 提案書 27 ページ
- 3. // ピアール用パンフレット A3版裏表印刷 (A4:4ページ)

III. 提案内容の紹介

A. 水質の改善

呑川中流域で顕著な下水からの流入汚物による腐敗汚染については、現在検討と改善工事を行政サイド(東京都、大田区、等)で計画的に実行及び検討がなされており、この進捗を見守った上、別のアイデアが無いのか、ピックアップし検討を行った。以下の3点を追加案として提案する。

- (1) 洗足池付近を通過するリニア新幹線のトンネル



内湧水の洗足池及び呑川への導入

現在、既に工事が始まっているトンネル避難口でポンプアップされるトンネル湧水を下水に捨てるのではなく、洗足池まで導水管を施工して一旦、洗足池へ導水すれば、洗足池から洗足流れを経由して呑川へ導入が図れる。

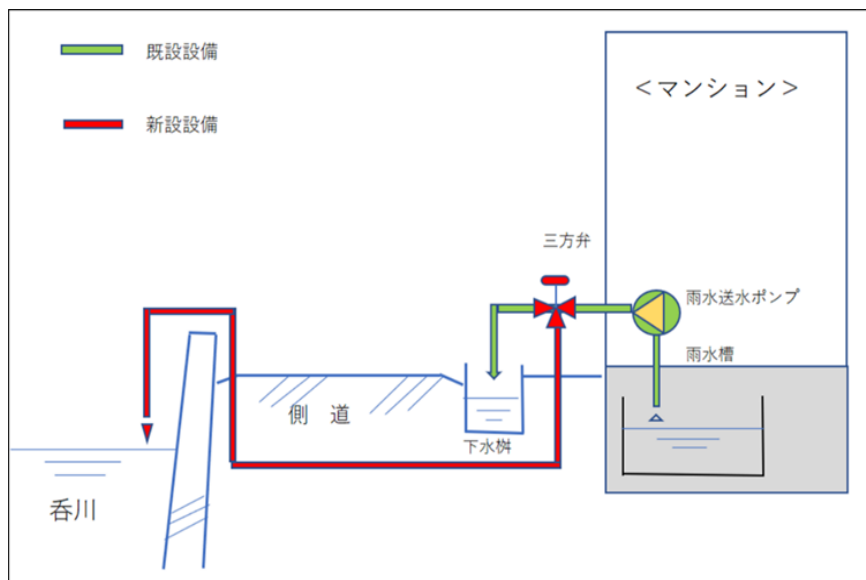
湧水の量は現状では不明だが、洗足池を含めて大きな効果が期待できると思われる。

(2) 池上養源寺内湧水の導入(側道下の配管施工による)

(3) 呑川沿岸の開発建物からの貯留

雨水を導入

現在、大田区の呑川沿岸の施設建設については、洪水対策として土地、建物に対して雨水の貯留及び浸透対策の施工が要請されているが、この施策に追加して呑川直近の建物で雨水槽を整備する場合は、図のように側道下配管を施し、呑川へ貯留した雨水を直接排水するように導く。(補助策等が必要か)



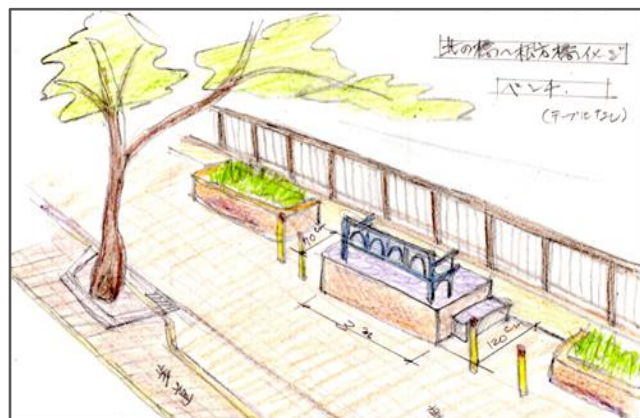
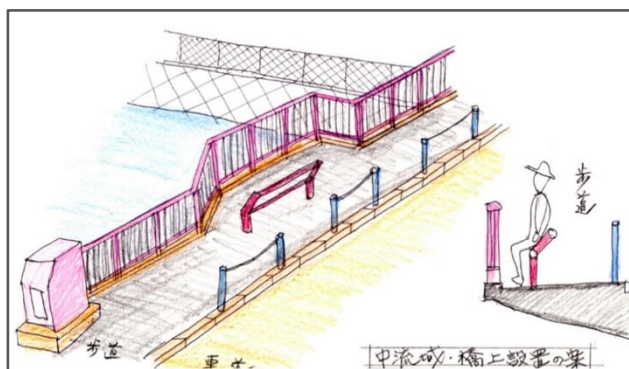
B. 川沿い部分の改善

川の中や護岸をもう少し、親しみと潤いが持てる形体へとの変更を模索した。

(1) 川を眺めながら憩える場所の設置

呑川沿岸に川を眺めながらゆっくり休める場所がない。どうにかして、中流域から上流部にかけて場所造りを行いたい。

① 側道が比較的広い部分にベンチと緑を置く
側道が比較的広く可能な場所にはベンチを



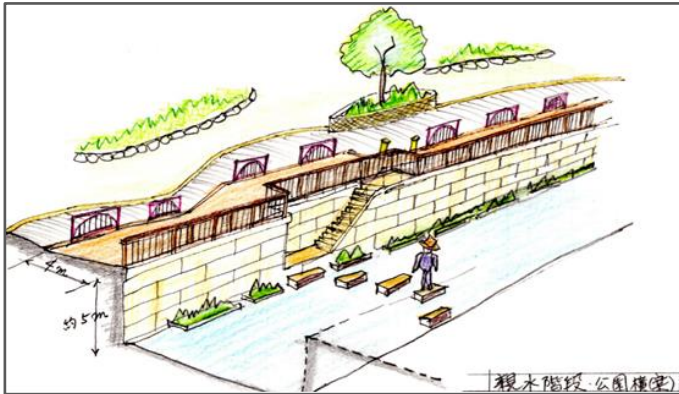
置き、川を眺められるようにする。

② 橋の架け替え時に幅を広げて歩道を造り、簡易椅子等を置く

⇒ 道路幅が狭く、設置場所が無い所の対応としての提案。

(2) 親水階段と川面近くの(川床)遊歩道の設置

川はやはり水面近くからながめるのが良い。中流から上流では流れも比較的きれいなので、呑川沿岸の一部を改修し、傾斜のゆるい親水階段を設置して、人が容易に危険なく川面まで降りられる箇所を造りたい。



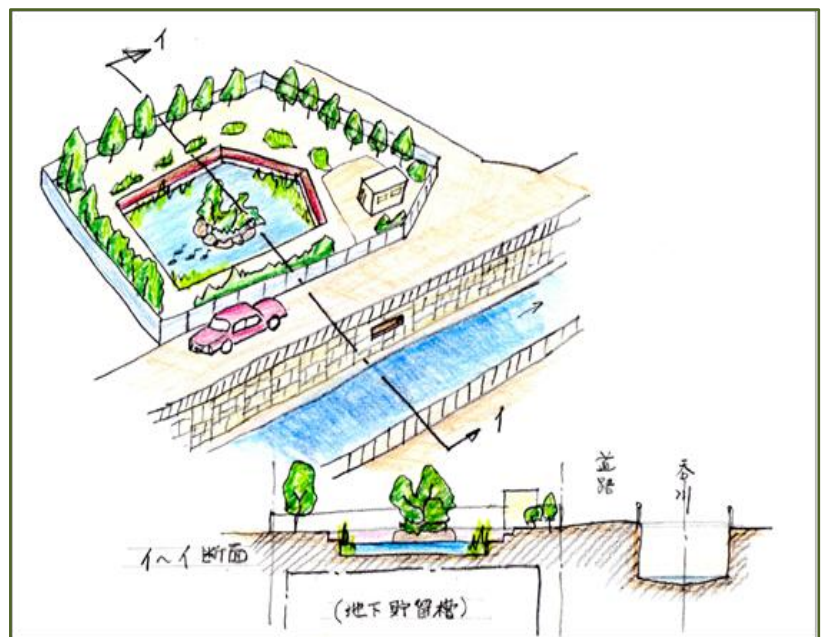
階段を造るには側道がある程度広くないと無理だが、呑川に面した公園を利用して道路を迂回させることも出来るのでは。(左図)

また、可能であれば階段い続けて川床の岸際付近を改造し遊歩道を造り、川面に近接して散歩ができる場所できればすばらしい。(右図)



(3) ワンドのある親水公園の設置 (大規模ワンドと親水公園の造成)

ワンドとは川につながった池のことで、魚の産卵場所になったり、小魚の生育場所等、川の生き物達の揺りかごになる。そのワンドをもっと上流の魚を増やすためにも、呑川にぜひ造ってみたい！
同時に予算対応に配慮して、地下は今後の洪水対策のための河川水一時貯留水槽にする二重目的案として提案している。



(4) 蒲田駅東口の川沿いを「すてきな散歩道とおしゃれな店舗街」へ！

現在蒲田駅の東口の呑川沿いは駅に近い適地でありながら、自転車置き場等、川を挟んで殺風景な景観となっている。このエリアを川を生かした憩いのしゃれた街に変えて行く提案をしている。



方法：地域指定して街区を短期的に作り直していく方法がある。一方でまずは現在の川の護岸や側道を並木とベンチ等一体的デザインにし直して、人々が憩える環境の遊歩道に変えた上、長期的に街区全体も変わる様に行政が誘導を図る方法もあるのでは。

C. 川沿い道路の改善

(1) 遊歩道の抜本的整備

東京の他河川と比較して整備の立ち遅れが目立つのが、周囲住民にとって重要な遊歩道の未整備です。まともな遊歩道は一カ所もありません。少しずつでも早い整備を求めたい。

基本提案：上流から下流まで一気通貫の遊歩道を整備する。(下流の側道が無い地区は除く)

造成方針：

- ① 兩岸の側道のうち、狭い方や公園、学校側を遊歩道化する。
- ② 通り抜け一般車両を禁止し、車庫利用車、緊急車両、宅配便車両は利用可能とする。
- ③ 車道で7m道路は自転車専用レーンを設ける。

(2) 並木や植栽帯の整備を前提にした道路の造成

上記遊歩道や道路幅7mに近い一般側道においては、車道と歩道の分離 他、川沿いに植栽や並木の整備を行い、癒しの空間を演出する等、側道の道路幅に従った道路デザインを提案。

⇒ 3m幅、4m幅、7m幅 (次ページ図参照)

D. 沿岸の緑化

(1) 桜並木の整備

戦前の池上付近は元々「長栄桜」と言って、2千本の桜があって都内随一にぎわったところでした。この桜並木を可能なところには他の場所も含めてもっと植え、大きく増やしたい。

(2) シンボルツリーの整備

地域に合った樹種を選び、沿岸の要所々に比較的に大型の木を植えて、川との景観上の調和を図る。

(3) 「緑のトラスト」の設立と運営

緑化やその後の運営費はトラストを作って資金と人材を集めてはどうだろうか。

《提案図》沿岸道路(側道)の改善と緑化案 — 中流域の例

(凡例)

遊歩道:



桜並木:

新設



桜並木:

既設

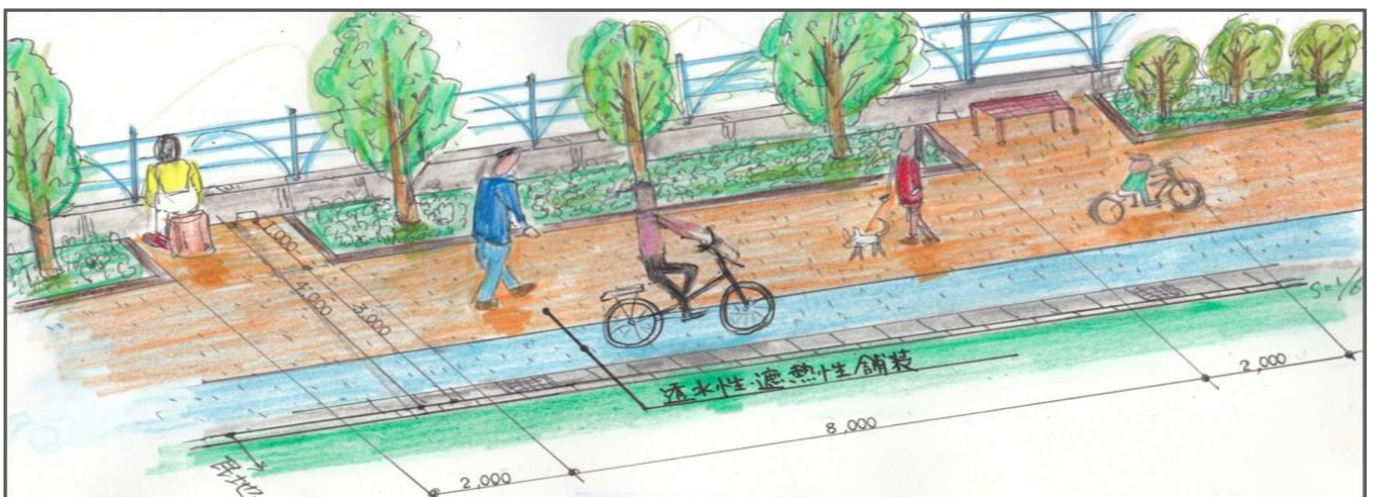


シンボル

ツリー:



《提案参考図》道路幅によるデザイン案 — 4m側道の場合



D. いきもの環境の改善

呑川の生き物は流れる水が比較的きれいで、また栄養分が高い水であることもあって、魚類や鳥類共に下流から中流域までは良く見られる。しかしながら数は多いとは言えず、特に上流部では魚も少ない。どうにか環境を整えてもっと増やし、住民が楽しめる川へ近づきたい。

◀ 魚類 ▶

魚を増やすことは肉食系のサギなどの鳥類も増やすことに繋がり、最も重要です。

観察によるとボウ等の魚は汚染が酷い地域も乗り越えて上流に向かっていく姿がよく見られるが、残念ながら上流域の環境が水深も浅く、単調なため上流では少ないのが現状です。

魚だまり(静水域)の設置

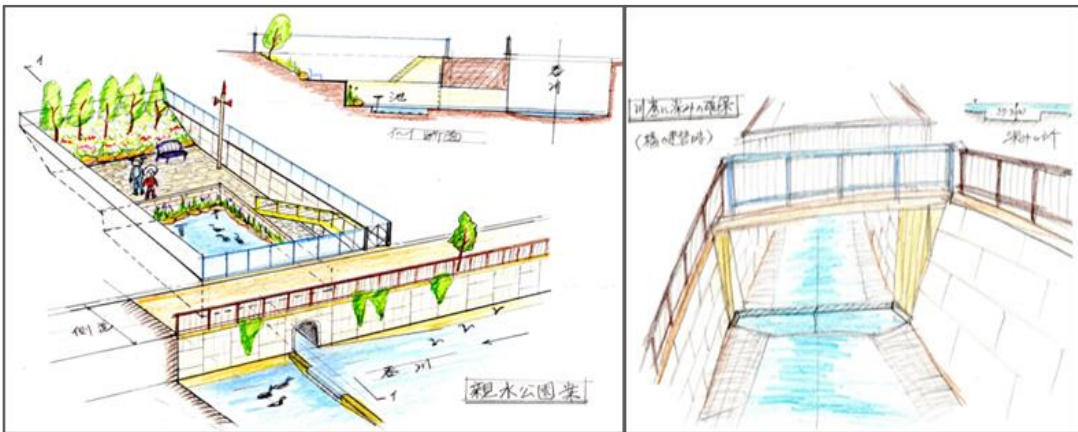
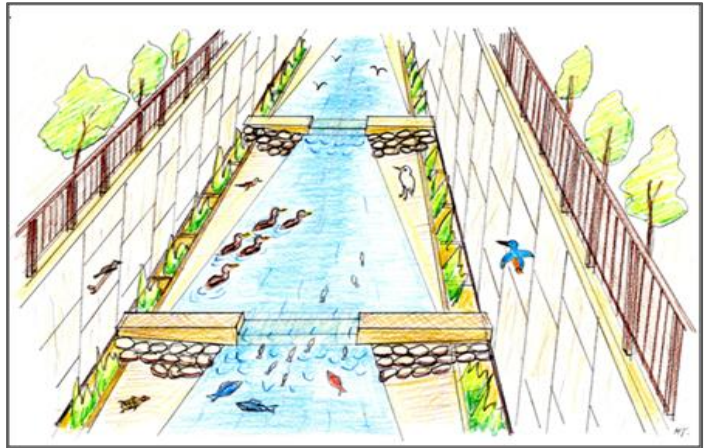
① ミニワンドの造成

呑川沿いのミニ公園を利用して小さなワンドを造れないか。

② ミニ堰を可能な場所に造成

上流部では低い堰を作って深みを増やせないだろうか。

③ 橋下の構造を利用した深みの維持と造成



④ 川の流れに変化を— 瀬と淵の造成

理想案だが、少しでも川の流れに変化を付ける工夫は出来ないものだろうか。



《鳥類》

鳥の種類と数を増やすためには

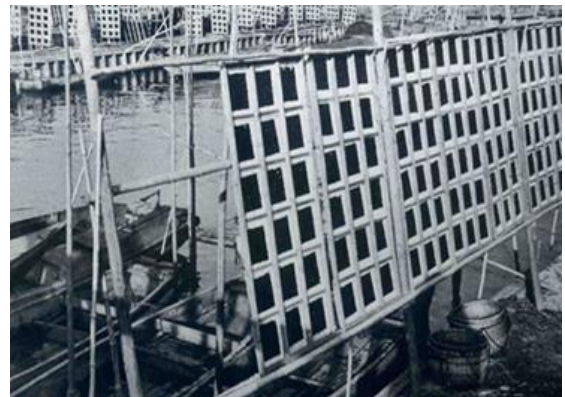
- ① カモ類は川床近くの護岸に植栽帯を設ける他、増水時の避難場所の造成(ミニワンド等)ができる
と良い。
- ② 特にカワセミについては護岸に餌取り用の止まり木の設置、場合によっては営巣場所が確保でき
れば、理想的。
- ③ 一般の鳥類は側道の緑化の強化が期待される。

E. 案内・説明板の改善

2018年の春に大田区にて統一した川の案内と説明表示板の強化工事がなされて、だいぶ改善が行
われつつありますが、まだ以下の面での補強がされる余地があり、例示提案をしている。

<事例写真: 海苔の養殖と呑川>

- ① 要所に呑川全体の説明図
- ② 川の流れ等を工夫した箇所等の解説
- ③ いきもの特徴等の説明
- ④ 六郷用水との係わりの説明掲示
- ⑤ 昔の呑川の解説
例. a. 夫婦橋付近図 b. 海苔養殖の歴史と呑川
- ⑥ 浄化装置等の解説



F. 船の利用の推進

呑川は海老取川を經由して東京湾に注いでいる。
東京湾の観光クルーズは大田区も取り組んで
いるが、呑川を使った観光クルーズに発展でき
ないものか、提案する。

船の発着は利便性も良く、防災用の船着き場が
ある夫婦橋公園を起点として東京湾を回遊する
コースを提案した。



G. その他イベント企画

イベントでは検討の末、残ったのは歩こうツアーの開催提案で、6つの呑川沿岸周辺のコースを提案
している。 当会の開催も含めて、呑川をゆっくり探索するコースにしたい。

提案内容 END

IV. 議会・行政への広報活動の結果

本プロジェクトの最大の目的は、行政当局に呑川の未来造りのために、この提案を少しでも受け入れてもらいたいこと。そのために具体的な行政への働きかけをさっそく行いました。その活動の状況について報告いたします。

1. 大田区議会 各議員

2018年の9月頃よりつてを頼って、各会派へのアプローチをはじめ、10月までにほぼ議員の全会派へGD提案書の説明を直接行うことができました。

<実施できた各会派>

自民、公明、共産、民主、無印、緑、フェア民、ネット、無所属

結果：議員数 47名中 20名の議員に直接提案書を手交の上、1時間から2時間に亘って説明と意見交換を行いました。

<感想等>

各議員共、熱心に聞いていただき、意見交換含めて前向きな感想と評価をいただきました。また、今後のフォロー等についてもこの機会に直接の面識ができ、大変良い結果になったと考えています。

2. 大田区 行政当局

(1) 川野副区長への説明会

2018年11月12日に担当部長同席の上、提案書について説明し、簡単な意見交換を行いました。ここで、「呑川の改善の方向性は私達と同じ」との副区長のご意見をいただきました。

(2) 本年度の区との第2回意見交換会にて(2018年12/10日)

例年、年2回夏前と11月頃に実施している区との意見交換会において、今回は呑川GDの説明を行い、パワーポイントを使って、約1時間の説明を行いました。

出席された区の各直接担当部署の担当官は20名以上に及び、区の関心と協力に感謝する次第です。

また、今後の当局内での関連する動きに特に注視して行く所存です。



3. 東京都議会 各議員

東京都議会についても今後の応援を期待したく、可能な範囲での説明を行うこととした。
議会内の建設・環境部会の議員他、3名への説明を行った。



4. 東京都 各担当部署(2019年1月実施)

(1) 東京都建設局 河川部計画課

東京都の河川管理を所管する部署であり数名の担当官との説明と意見交換を行った。意見として今後参考にして行きたいとのことであったが、提案内容において、直ぐに困難だと言える項目は無いとの見解で、比較的に良い評価であった。

但し、現在東京の河川改修のテーマの中心は大雨による洪水対策にあり、環境配慮型の改修の予算を単独で確保することはハードルが高いとの感想を得た。

(2) 東京都 第二建設局

河川管理の実務を司る部署であり、対応された数名の担当官への説明と意見交換を行った。上記と同様、内容の共感を得たが、環境配慮型の改修の実現への道のりは簡単ではないことを改めて実感した。

(3) 東京都下水道局 計画調整部

呑川の水質改善において合流改善工事計画を担う部署であり、2名の担当官への説明を行った。

- ◎ 以上、グランドデザインの検討からとりまとめ、そして行政当局への直接の説明実施と継続して行って来ましたが、行政の受け止めは総じて好評であったと思う。しかしながら、本当の受け止めは今後にかかっており、私達も継続したフォロー体制を作り、努力を尽くして行く必要性を感じているところです。

以上、まとめ 菊池 均

<ご挨拶>

この呑川GDは私達の長いあいだの思いを込めて作られたものです。

今後この案が少しずつでも実現して、皆さまに愛される呑川に大きく育って欲しいと偏に願っています。

呑川流域ネットワーク連絡協議会
代表 宮田 孝子

いつかはきっと、こうなって欲しいと、みんなが胸に描いていた理想が、このグランドデザインに盛り込まれました。

これを「指針」として、私たちも、行政の方々も、一歩ずつ前進出来ればと思います。

そして、とりわけ子どもたちに「呑川に、こんな未来が待っているんだ！」と目を輝かせてあげたいと思っています。

呑川の会 代表 高橋 光夫